

平成27年度 鳥取県PTA協議会 教育懇談会

平成27年8月1日(土) 県立倉吉体育文化会館

【グループ討議?】メディア21時について

●県教委より説明

以前はノーテレビの取り組みが盛んであった。その当時携帯電話も広がり始めた頃で、携帯電話の研修もしていた。H20年「ケイタイを持たせない」宣言を出した。ケイタイやスマホについては中高生を中心に啓発活動をしてきているが、最近ではゲーム機でもインターネットやLINEにつながるようになって、小学生でもインターネットやLINEにつながっている実態は確実にある。ということは、自分だけ、自分の家だけの取り組みでは防ぐことはできない。親は研修で色々知っていても、我が子になかなかびしっと言えない家庭もある。学校や地域全体で取り組むことで、親も子どもも何らかの防止策がとれるようになると思う。このように全県で取り組むことは意義があると思うし、県教育委員会としても一緒に取り組んでいきたいと思う。

●経緯説明・・・司会

単Pレベルで取り組んでいても、子どもたちには学校を超えたつながりがすでにできている。メディアと一言でいってもゲームを含めた色々なものを含んでいる。米子市Pが「スマホを持たせない」宣言を出したところ、全国的に関心を持たれた。しかし、実際は持っている子どもたちが年々ふえている。そのような現状から、小学生の頃から相手に迷惑がかかるようなメールやLINEは夜9時になったらやめようという取り組みを全県ではどうかということで「メディア21時」のチラシをつくることになった。このチラシについてご意見を出してほしい。

●意見交換

- ・境港市小中Pで、夏休み前にメディアに関する物をつくりたいと思っていたがまとまらなかった。境港市では「持たせない」取り組みをしていきたい。
- ・ケイタイやスマホだけでなく、ゲーム機でつながる環境がある中では「持たせない」だけでは難しい面がある。「持たせない」を基本とするのはその通りだが、持っている子に対しての取り組みもしていかないといけない。
- ・「持たせない」取り組みは基本として続けるべきだと思う。それにプラスしてこの運動ができると学校としてはありがたい。家庭としても、取り組むとっかかりになると思う。子どもとコミュニケーションをとるきっかけにもなり得ると思う。
- ・小1にこのチラシは必要なのか。
- ・小学校、中学校で内容を分けてはどうだろうか。小学校低学年は所持率が低いと思うので、そうなれば少し違う内容のものでもいいのかもしれない。ケイタイが広まった頃よりはスマホが広がってきている今の方が、保護者の危機意識は今高まってきている。
- ・小学校低学年からリテラシーは必要である。このチラシは親への啓発も狙っている面がある。子どもたちが考えるきっかけになればいいと思う。
- ・基本は「持たせない」。その中で各学校でこのチラシを使って取り組んでもらったり、考えてもらったりすればよいのではないか。

- ・小学校と中学校で少し内容が違っていてもいいのではないかと。また中学生ぐらいになると配られた物が親の手に届かないこともあるので、保存しやすい物で、子どもの目にもよく触れるところに貼れるといいかもしれない。
- ・標語を募集したり、クリアファイルにしたりするのもいいかもしれない。
- ・小1～中3では幅が広いが、保護者に向けてはこのチラシはインパクトがあると思う。小学校低学年向けのもは、LINEの絵でなく、ゲーム機の絵に変えとかしたらいいのではないかと。
- ・小学生でもタブレットを持ってやっている姿があるので、小学校低学年の保護者に向けても意味があると思う。
- ・このチラシを基に、生徒会で取り組むとか子どもたちが自分たちでルールを作っていくような取り組みにつながると思う。
- ・学校、県教委、PTAがそれぞれ呼びかけをしていくことは必要だし、色々な切り口でやっていくことは素晴らしいことだと思う。

司会 夏休み明けぐらいには、チラシを配布できるようにしたい。

スマホを買うときにフィルタリングをかけるようになっているが、子どもたちは親よりもよく知っているので、親の目をくぐって色々なことをやっている。それを防ぐための1つの手段として、時間に制限をかけることは有意義であるし、家庭で決まり事を話すきっかけにもなる。自己コントロールする力をつけていくためにも、年代に応じた取り組みが必要である。他県でも似たような取り組みがされている。

司会 どのように配布したらよいか。

- ・生徒会とPTAと一緒に話をする。
- ・高Pと連携もできるといい。

【グループ討議②】 ICT教育・学力向上について

司会 ICT教育は、必要だと考える。しかし、県のICT活用教育推進ビジョンが、実のところよく分からない。果たして、対価に見合った成果につながるのか？子どもたちにとって有益な教育となるだろうか？

●ふるさと自慢での自己紹介

(鬼太郎、恋山形、打吹まつり、グランドゴルフの発祥地、歩いて海水浴、空が広い)

●県教委より説明

学力向上のための〇〇教育、〇〇の一つがICTを活用した教育

学力とは・・・生きる力・学び・体づくり

家庭での規則正しい生活ができていれば、学力も高い(集計済)

地域の行事に参加する＝生きる力につながる・・・なぜ？ありがたさや、思いやりを感じる

県教委はICTをつかって新しい学びをめざし、学びの質を向上させるために地教委にお願いするが、それぞれの財政力で差ができる(ハード面：一律は難しい)

パソコンからタブレット、紙の教科書からデジタル教科書のように、これからは前に進むだけ

●意見交換

① ICT 活用・・・質の高い学びを提供できるのか？

- ・佐賀県武雄市タブレット端末で授業崩壊の危機（タブレットの質が悪く授業にならない）
- ・教員の負担増（タブレット操作、5.6年英語、土曜授業）
- ・取り入れる価値があるもの（効果がある授業・便利なもの）だけ使えばどうか
- ・使うのは、副教材として・・・道具として
- ・調べる・・・文字より、絵や動画のほうが理解できる←→自分で想像しない
- ・専門の先生（インストラクター、カウンセラー）を置く必要がある
- ・手をあげて人前で意見を述べるということが生きる力なので、そこがおろそかになる
- ・便利だと思うが、学力は低下しそう

② ICT 教育そのものについて？

- ・わざわざ ICT 活用をするのであれば、ICT の基礎、プログラムをつくれる子どもに仕組みがわかることによって、未来がみえる子どもになる
(将来、ICT を職業に生かせるような活用、きっかけづくり)
- ・ただ、授業内では無理・・・地域・土曜授業につながっていく？

③ 各学校に置いてある PC は？

- ・調べ学習でしか使っていない現状がもったいない
- ・さらに入れ替えるとなるとすごい金額になる
- ・タブレットになると今の PC はどうなるか

※目標達成のために整備が必要な ICT 環境

設置場所を限定しない可動式コンピューター40台

超高速インターネット接続及び無線 LAN

●まとめ・・・

ICT が入る意味は、学びの質を高めるということ

ICT を活用して、「わかった」「できた」の体験をしてもらう

そのためには、教室環境を整える必要がある（支援員の確保）

すべての施設に IT→ICT を

人とかわりながら ICT(道具)をつかってより便利に

教員の研修をして、メリット・デメリットを見極め、子どもにつかっていく

育めるものと育んでおかないといけないものをはっきりとらえる必要がある

懇談会に参加して

ICT 活用と一言と言っても、まだまだ課題は沢山あるように感じた

整備するのに時間がかかるが、楽しみでもある

とても、有意義な時間を共有できてよかったと思う

【グループ討議③】家庭教育について

●自己紹介

●司会挨拶

子どもの健やかな成長の基本は家庭教育であることは間違いない。しかし、家庭教育が十分に行える環境にない（生きていくことだけで精一杯、自分のことだけで精一杯で子どもの健全育成まで考えられない）大人（保護者）が増えてきているという現状がある。このことを押さえておかないと鳥取県の家庭教育の底上げが期待できない。子どもは育てられたように育ち、育てられたように育てる。この連鎖を少しでも良い方向へ持って行きたい。

●県教委より説明

貧困（生活保護など）や一人親家庭が増えてきており（参考資料1, 2, 3, 4）保護者間の孤立感やつながりの稀薄化が子育ての自信消失になっていることを意識すべきである。県全体で1クラスに3.5人は一人親家庭があったり、家事と育児に関わらない父親が増えてきている。

●県教委の説明に対して

Q、一人親家庭は差が出るか？

A、難しい。一人親が増えてきている中で保護者間の年齢層により話がしにくかったりするが、保護者への切り込み方が大事。

校長先生の見解は「家庭がしっかりしている子は落ち着きがある。」

●意見交換

?家庭教育の在り方は？

- ・子どもと一緒に体を動かすが、勉強は奥さんに任せる。夫婦間の役割でどちらかが怒れば他方は諭す。スポ少での言葉使いが問題で自分が言われたらどう思うか・・・
- ・勉強よりも規則正しくできているかに重点を置いている。中学になると挨拶ができています。学校に期待することは学校や周囲からの目配りと声掛け
- ・親に言われたことを子どもにさせており勉強よりも規則正しい生活に重視。しかし時代の変わりように対して時代に合ったことをする。生活習慣があまりにも異なった子がいるので親世代の周りからのアプローチが必要で規則正しい生活が良い勉強につながり更に意欲的になる。
- ・世代によって行動が異なるが必ずしも正しいわけではない。
- ・子どもを大人の都合（生活）で振り回してはいけない。平成18年の国民運動により改善しつつあるが、中学生の6割以上は11時に就寝なので問題。地域性が強ければ夜のコンビニなどの見回りが必要。また給食の利点として昨今朝食をとらない児童がふえてきているので1日分の栄養バランスが考えられている。食事の大切さを学校・家庭で見直すべき
- ・気にしていない。しかし家で勉強はするが宿題しかしない。勉強、食事、会話の区切りがない。自分がそうだったように奥さんに任せ、食事の用意の際は子供の面倒をみる。
- ・時間をセーブし子どもを育てる。小学校は宿題だけの勉強で十分。基本的なことが出来れば犯罪者にはならない。地域活動や学校活動は積極的に出るように義務付け。周囲から声を掛けてもらえると話が出るようになる。夏合宿をしてお客さんとして扱わず家のルールを徹底することで他の人の生活リズム、生活習慣が見えてくる。モットーはローコスト・朝は起こさない。

- ・待つことができずつい口を出してしまう。サッカー教室の欠席連絡は子どもにさせる。子どもの為に行っている（言っている）ことが実は子供の為になっていない。祖父母の存在が物の言い方を考えさせられ怒るのではなく諭すべき。親行？実践のワークショップ。1人目は厳しく2, 3人目は甘くした分、上が注意するので均等にできればよかった。
- ・1人親と祖父母の生活の違いについて県内では祖父母との生活が多く、親が仕事をしやすい、夜のPTA活動に参加しやすい環境にある。放課後児童クラブに入れない児童が増えてきている。（米子市）わが子を見るだけでいいかは疑問が生じる。例えば児童間の喧嘩で被害者・加害者の一方向しか見えていないと視野が狭くなる。子どもの関わり方は個々だが、理解や周囲の温かい目は保護者の成長にもつながる。

②PTA活動に出にくい環境にある人に対して独特な取り組みはありますか？

- ・出てこない人を非難するのではなく、少しでも出てもらえるような時間帯の設定や議事録などの配布などにより孤立を防ぐ。
- ・保護者同士の話のしやすい場づくり、人から教えてもらう大切さ。小グループのざっくばらんな研修会の開催。話をしないと新しい発見はない。⇒話をする機会の増は家庭教育につながる。

③保護者としてPTAに期待している事は？

- ・話はしていない。集まる時間は限られる。出てこれる時間に変化をつけたい
- ・参観見たら帰る人が多いので1本釣り
- ・講演会は人が出てこない。親同士の情報交換の場が必要。
- ・同じ人しか出てこない。親同士の関わりがなければ子ども同士の関わりも希薄になる。
- ・参加できていないことが多い。親同士のつながりの為には情報交換会が必要。また先生とのやりとりが必要。

●まとめ

地域を大事にすることがふるさと教育を大切に思える育て方となる。

【グループ討議④】 キャリア教育について

●司会挨拶及び趣旨説明

●各自ふるさと自慢を言いながら自己紹介

●県教委より説明

- ・大人になってからの土台作り
- ・学ぶことについて身につけさせる
- ・社会的に将来的なことを身につけさせる

◇小学校の段階

- 1, 人としっかり関わる
- 2, 親が何をしているのか興味を持たせる
- 3, 将来の夢、希望、憧れの人を持たせる

4, 目標に向かって前進させる

◇中学校の段階

- 1, 心がとても揺れる時期だが前に進ませる意欲を持たせる
- 2, 自分自身でどんなことをしたいか進路決定について考え、それに向かう意欲を持たせる

◇高等学校の段階

- 1, 進路など自分自身で選択し自分で決めるようにする（人に流されないようにする）

●意見交換

司会・参加者の小学校、中学校の取り組みについて情報交換が出来ればと思いますので、いろいろな意見をお願いします

- ・子どもが中学2年生で職場体験でホームセンターで実習（レジや商品陳列の体験）
- ・職場体験といっても結局はゲスト扱的な職場体験になっている場所もあるのではないかと学校側の提案だけではなく、保護者が行っている仕事などを体験させてみてはどうか先生のみならず保護者も参加させるようなシステムができれば少しは変わってくるかも
- ・鳥取市立西中学校では保護者が生徒を受け入れてくれる事業所を探しているとのことしかし、中には何回交渉しても受け入れを拒否する所もある・県庁食堂職場体験が第一希望だと生徒も意欲がわきやすい
- ・仕事に対して感謝をし、一番に挨拶ができたりする子どもはやはり親の背中を見て育つので模範になるような行動をとったりする働いた後の疲れ感を見せないようにし、人の役にたって仕事をするということを目指すように教えていくいろいろな職種に携わっている大人たちが子どもたちにその仕事の良さを伝えることの大切さもあるのではないかと
- ・農業体験の例として梨の袋かけや受粉作業の実施（湯梨浜町）小学校では田植えと稲刈りを人力で実施している
- ・今のキャリア教育は中学校が主として行っている市町村が大半なのでこれを小学校高学年くらいの時に体験できるようなシステムにできれば良いのではないかと

●まとめ

- ・学校、地域、保護者も巻き込んでのキャリア教育の実施
- ・終わった後の職場体験の生徒と保護者の情報共有
- ・事業所にとっても体験した子どもたちに経験して良かったという達成感や有意義だったという気持ちを持ってもらえたらという気持ち

【グループ討議⑤】土曜授業について

●「ふるさと自慢」をからめた自己紹介

- ・教員になってはじめて境港に住んだが、保護者・地域に支えられ、育てられた。魅力あふれる人たちに囲まれ、「人が好き」と書いた。
- ・伯耆町は、とにかく水がきれい。だから、水がおいしい。魚もおいしい。つりも楽しい。おいし

い水を全国に売り出している。

- ・ 八頭町といえば、フルーツとホッケー。ホッケーは、中高が全国大会に出場中。花御所柿など、めずらしいものも含めていろいろなフルーツの里。
- ・ 近所中が、大きな家族のように、大切にされて育った。「みんなが家族」のふるさと。
- ・ 赤碕生まれで、淀江在住。勤務先の日南小学校まで、毎日、45 km通勤。日南町は、豊かな自然と歴史・文化につつまれた町だが、学校が統合されて7年。学校周辺のことは知っていても、それまでの地域のことをあまり知らなくなっている。ふるさとを好きになるには、まず知ることからと思い、ふるさと学習に力を入れている。
- ・ 北栄町は、今でも近所で「あの人が好きだったでな〜」とか、「たくさん獲れたけ〜」とおすそわけ文化がある、昭和の時代を思わせる町。若い時は都会にあこがれたものだが、今はわずらわしさより見守られ感。一步出ないと、良さが分からないということもあると思う。
- ・ 倉吉。水がうまい。蛇口から直接水が飲める。野菜、果物おいしい。自然が充実している。
- ・ 岩美町。ジオパークの岩美。きれいな海。おいしい海産物。ジオパークをからめた学びを小中で行っている。

● 県教委より県内の土曜授業の現状と課題について説明

◇ 経緯・・・

昭和の終わりから平成にかけて、週の労働時間が40時間で週休2日とする職場が増え、国際的には当たり前であったが、日本の学校でも週5日制が議論されるようになった。

昭和61年、臨時教育審議会の答申が出され、平成2年から、月に1回第2土曜を試験的に休みとした。しかし、このころは、その分の授業時間を他の日に振り分けての対応だった。

そもそも、週休2日の議論は、「学校・家庭・地域が連携し、子どもたちに社会体験・自然体験をさせることで、①確かな学力、②ゆたかな人間性、③たくましく生きる健康と体力という、“生きる力”を身につけさせ、人生の中で起こるさまざまな想定外の問題に対し自ら解決する力を養うための取り組みが必要」と始まった。

平成8年から、月2回となり、平成14年には、完全週休2日制が導入された。

そして、国からの要請で始まった週休2日制が、今度は学校からの要請で、土曜授業の取り組みが、月2回までなどの条件付きで東京で始まった。

土曜授業への高い支持は、昨今の格差社会とも相まって、休みとなっている土曜日を有意義に過ごせない子どもの存在と関係する。すべての子どもに豊かな教育環境をとの願いのもと、法律が改正され、公立学校の休業日の規定が設置者の判断となった。

◇ 現状・・・

鳥取県では、現在、土曜授業等ということで、通常の授業を行う土曜授業、体験学習などを行う土曜課外授業、そして、学校ではなく、NPOなどが主催する希望者を対象とした土曜学習が取り組まれている。子どもたちの土曜日の過ごし方についてアンケート調査を行ったところ、テレビを見たり、ゲームをしたりして過ごす子どもが一定程度いた。部活や習い事などで忙しい子どもたちのことを思うと、たまにはなにも考えずぼっと過ごす時間があってもいいのではとも考えるが、土曜日にすべての保護者が休みではなく、過ごし方に差があることがわかった。県としては、支援できるところは積極的に行うという方針で、フォーラムを開催したり、連絡協議会を開いたりしている。活動は設置者の判断で行われることとなっているが、基本的には、発達段階をふまえた、専門知識のある外部の人を迎えるなど、土曜ならではの学習を行うことをねらいとしている。豊かな体験、英語に親しむなどの活動が多いように思うが、活動は少しずつ充実してきている。

◇課題・・・

保護者・教員の負担を考慮しつつ、だからこそ、なんのために、なにをするのかという部分を学校・家庭・保護者で共通理解しないと、息の長い活動にならないと考える。また、月曜日から金曜日までの平日を変えないまま土曜日を増やして、課題の解決になるかという視点も、しっかりもって議論していかなくてはならないと思っている。

●意見交換

- ・平成24年の国の調査によると、全国的には「まだわからない」と様子見のところが多い。
- ・県内の小学校で実施率が高く、中学校で低いのは、部活動の関係と思う。
- ・教育委員会として負担軽減の案は…。補助事業の補助金で人を雇えないのか。
- ・教員の振替休日は、学校日はもちろん、長期休業中でもなかなかむずかしい状況がある。補助金は、人件費には使えないこととなっている。
- ・日南町では、現在年10回開催。学力向上の位置づけで行っている。小1の当初段階で補充授業はむずかしいので、下学年は体験学習。今年は、教育課程特例校で、4年生まで体験学習、5・6年生は、米子市内の塾の先生に来てもらう回、塾のテストを行う回がある。少人数の日南町での立ち位置ではなく、接点のない人たちのなかで自分の学力を意識するきっかけになればと行っている。
- ・教員はすでにめいっぱいな状態なので、いいこととわかっているけど、実際に「やる」には二の足を踏む状況だったが、教委に背中を押され、やるなら、きちんと意味のあることをしようとやっている。土曜授業があっても、月金の授業はうすめないとはいっても、こなせる量には限りがあるので、学校日であっても、疲れがたまっているようなら、その日は、先生は出張というような思いで、早め早めに休んでもらっている。勤務管理など、やってみてはじめてわかるむずかしさもある。教員が増えるといい。
- ・倉吉は、昨年3回から今年は5回。有効な土曜授業は、平日に時間のかけられないことを行うなど、たとえば平日なら2時間しか取れないところを土曜日で3時間使うなど、月金の延長線上にあると考えている。過度の負担にならない範囲で、楽しみながら、地域とかかわりをもった活動。感想が保護者間で伝わったり、かかわった人同士で新たな交流が始まったりするなどの喜びもある。
- ・岩美町では、今年度から開始。現在2回行った。3つある小学校では、それぞれ、子どもジオガイドになるためのジオパーク学習、地元のコーラス隊と音楽祭、学習、中学校では平常授業と人権教室を行った。小と中では意識もリズムもちがうと感じている。必要性について、今後話合う必要があると思う。
- ・小中で行事の日程を合わせる。中学校は部活があるので、ハードルをあまり高くしない。参観や保護者研修を行うなどの工夫。
- ・運動会については、振替休日を設けているが、そのほかの行事、学習発表会などは振替なし。
- ・第○土曜日というように固定化されていないため、子どものリズムになりにくい。
- ・スポ少の関係などで、日にちの設定がむずかしい。
- ・授業なので、スポ少の大会で来られなくても欠席扱いになる。
- ・大人としては学校優先と思っても、大会に向け頑張ってきた姿を思うと、また、自分が子どもの立場だったらと思うと、大会と学校が重なると辛い。
- ・八頭町で行われている土曜学習は、現状では、大半の子どもは部活が忙しくでられていないのではと思う。ただ、本気でするとなったら保護者も協力すると思う。
- ・保護者にアンケートをとると、積極的な回答もあるが、なかには家族と過ごす時間が減ったとか、回数を減らしてもらえないかとの意見もある。

- ・保護者も参加する取り組みにして、子どもと一緒に学校に来れば、一緒に過ごすことになる。
- ・地域の活動とタイアップして、まちの清掃活動や地域体験をしている。年に5回くらいなら、このまま続けてもらっていいのではと感じている。
- ・保護者として、子どもの居場所づくり。
- ・地域の公民館活動をもっと多くの人に知ってもらう工夫。
- ・補充学習に、地域の人材を。
- ・「地域活動が充実しているので、土曜授業等は必要ない」と言える地域づくり。

●まとめ

目的・意義をきちんと理解していないと、お互いやられ感が生まれ、精神的負担となる。何のためにするのか共通理解、合意形成をし、思いを語りあいながら、過度の負担が、一部の人にかからないよう工夫しながら、やる以上は、意味のある活動を。

【グループ討議⑥】PTA活動の活性化について

●自己紹介(名前・学校名・役職・ふるさと自慢等)

●県教委より説明

学校・教育委員会がPTAに期待する事・PTAの課題

アンケート結果の報告⇒活動の活性化が必要

無関心保護者への参加の促進⇒全体での声掛けより個別の声掛けが必要(誰がする?)

学校・地域・家庭の連携が子どもの成長にとって重要な役割

- ① 活動見直し(会費の減少・組織の見直し)
- ② ニーズに合った事業計画(会員の意見の反映)
- ③ 会員への問題提起(会員の意識を高める)

●意見交換

? PTA活動の現状について

- ・会合の内容によって参加率が変わる⇒増やす為に同じ会合の2回目をする。
- ・様々な事情があり参加出来ない事もあるので託児をしてみたが、変わらず。
- ・何をしても結局参加する人はするし、しない人はしない。
- ・関心が低い
- ・世帯数が少ないので基本全員参加。参加率を考えた事がない。
- ・統合してから変わった(先生の参加も少ない)
- ・講演会等子どもも参加させる。一緒に帰る為参加率が増える。等々

? ニーズに合った事業計画とは?

- ・保護者の求める内容⇒情報収集して保護者のニーズに答える(父より母に聞く)
- ・負担感のない楽しい活動がしたい。自分自身が楽しいと思えたら他の人も楽しいのでは。

●まとめ

- ・男性・女性会長でも保護者の態度が変わる。
- ・会長カラーで保護者会の雰囲気かわる。
- ・役員に対して割り切る⇒参加しない人へ持っていても他の役員が困るので参加している人で決める。
- ・小規模校では全員が顔見知り。大規模校でそれが出来たらいいけど・・・。
- ・顔を知っている←それが大事！！
- ・参加型研修・場の雰囲気作り・行って良かったと思える様な内容
- ・地道な個人への声掛けが大切なのではないか。
- ・引継ぎの重要性⇒次に誰が役員になっても分かる様にしておく。
- ・使命感⇒結局は子どもの為。

ワークシート

“心のふるさと教育”

ワーク 1

あなたにとって“ふるさと”とは何ですか？

ワーク 2

鳥取の子どもたちを「ふるさとを持ち、ふるさとを思う大人」にするために、大人としてすべきこと、できることは何でしょうか

◆「ふるさとを愛し豊かな心を持った子ども」に育てるためには？



★「自らの目標に向かって志を持ち力強く生きていく子ども」に育てるために



●「地域の課題に気づき、解決する能力を身につけ、地域社会に貢献する子ども」に育てるためには？



手順

ワーク1

あなたにとって“ふるさと”とは何ですか？…自己紹介を兼ねて自分にとってのふるさとを語る

ワーク2

- ① 3つのテーマについてそれぞれ考えていただき、8つのグループでグループ内共有
- ② 各グループそれぞれのテーマ毎に多かった意見の上位3つを書き出し、参加者全体で共有

ワーク2—②のまとめ

◆「ふるさとを愛し豊かな心を持った子ども」に育てるためには？

まずは、地域の行事に参加することから始めて、人と人のつながりを大人も子どももつくっていくことが大前提であるとの考えがうかがえる。

地域の中でつながりができることで、子どもたちが見守られている環境の中、学ぶ、遊ぶといった体験ができるようになる。家庭の中で親子の豊かな時間（愛されているという実感）が、心のふるさとの基礎をつくり、こうした体験（地域の人とあいさつを交わし、温かなふれあいが生まれる等）を通して、大人も子どもも心のふるさとがより豊に彩られていくであろう。

- ・地域の行事に参加し、地域の中で人とつながる（子どもも保護者も）…7
- ・地域の中で体験をさせる（学ぶ、遊ぶ）…8
- ・親がふるさとを愛し、その姿を見せ、伝える…4
- ・地域で子どもを見守る…1
- ・ほかの地域から学ぶ…1
- ・親子の豊かな時間を作る…2
- ・全国一をつくる（本当はあるよ、和牛の種牛）…1

ワーク2—①少数意見

- ・身内でなくても誰かにたいせつにされる（幸せな記憶）
- ・変わらないふるさとのために変える勇氣
- ・後生までその地域が元気なこと

★「自らの目標に向かって志を持ち力強く生きていく子ども」に育てるためには？

まずは健康な体をつくり、学ぶ。この時、体験の積み重ねとともに読書をすることで創造性を養う。その上で、夢を持ち、自己決定し、チャレンジをし、失敗を恐れず最後まであきらめないでやり遂げる力を育てたい。

周囲の大人は、頑張っている姿、人生を楽しんでいる姿を子どもに見せ、子どもの話をしっかり聞き、褒める、応援する、見守ることで自信をつけさせていく。

- ・健康な体を作る…2
- ・学ぶ・読書…2

- ・夢を持ちチャレンジする… 3
- ・自己を自覚し、自己決定（最後までやり遂げる）… 4
- ・体験の積み重ね… 2
- ・子どもたちの話をしっかり聞く… 1
- ・ほめる・応援する・見守ることで自信をつけさせる… 7
- ・親の姿（人生を楽しんでいる姿、頑張っている姿）を見せる… 3

ワーク2—①少数意見

- ・親の心が安定して子どもに接する
- ・基本的な日々の生活を大切にする
- ・親離れ子離れ
- ・伝記を読む

●「地域の課題に気づき、解決する能力を身につけ、地域社会に貢献する子ども」に育てるためには？

直接的には地域に関心を持つ。

どこに住んでいようと課題解決に向けて、自分の思いを言葉にして伝え、仲間作りのできる大人への成長を望んでいる。ひとりでは解決できないことも仲間が集まり、知恵を出し合い、得意分野を活かせば多くの人の共感を得て、大きな力となるから。

身のまわりの生活（生きること）が社会とどうつながっているかを幼い時から学び、議論し行動することが当たり前の家庭・学校・社会となることも必要。この時、外から見ることも、多様性を認めることも大切。

- ・地域に関心を持たせることで地域を知り、地域の人と係わる（仕掛けをする）… 9
- ・地域の良さを知る… 1
- ・地域を学ぶ学習（ふるさと学習）を学校で取り入れる… 1
- ・仲間作り… 2
- ・ボランティア体験をさせる… 1
- ・自分の思いを発言する積極性を身につける… 1
- ・感謝の心を忘れない… 1
- ・自分はひとりでは生きていけないと気づかせる（感謝→恩返し→貢献）… 1
- ・世の中について学ぶ… 1
- ・行政の仕組み、課題を議論させる… 1
- ・一回外に出る… 1
- ・意識の芽生え… 1
- ・多様性を認める… 1
- ・地域で活躍する姿を見せる… 1

ワーク2—①少数意見

- ・真の子ども会の活性化
- ・新聞やニュースで課題を知る（親子で）
- ・自分のことだけではなく人のために何ができるか考える

見えてくること

家庭ではしっかりと愛情を注ぎ、家庭と学校・地域がつながって、遊び・学び・体験を通して、最後まであきらめないやり遂げる力を育てる（自己肯定感を育む）。

そして、どこに住んでいようと地域に目を向け、“つながる”ことから問題解決に向けて取り組んで行くことのできる大人に育てていきたい。

ふるさと鳥取を誇りに思い、地域に根を張り、地域の一員として生活することのできる大人の育成に向けて私たち大人が果たしていく役割は大きい。

【総括】

鳥取県教育委員会 小中学校課 小林傳 課長

『スタバは無くても砂場はある』という平井知事の言葉の意味を考えてみた。

「無いものに目を向けるのではなく、目の前にあるものに目を向けなさい。そうすると色々なものが見えてくる。」というメッセージだと思う。今日ここで各グループが話し合い出された意見の中に“あるもの”がいっぱいあると思う。

子どもたちは、目の前にあるもの、見えるもの、TVに写っているものそういうものを見る傾向がある。TVに写っていないけど、目の前に見えないけど確かにそこにあるものが見える子どもになって欲しいと思う。簡単に言うと、人の心にあるもの、温かさとか優しさとか、そういうものではないかと思う。

今日この全体会でのキーワードを考えてみると、感じる、触れる、つながる、学ぶ、知る、愛すという言葉になると思う。この言葉の共通点は、全て動詞。これらがキーワードになっている意味は、動詞ですからアクションするということになる。ふるさと学習は、出かけて行って体験することに意味があることを福田課長補佐も話した通り、そこに行って、その人に触れることによってそこに間違いなく生きているその人の心に触れる。その時に子どもたちの中にふるさとが刻み込まれることになる。

今後こういった子どもたちの豊かな学びが、それぞれの地域で広がっていくことを小中学校課として応援したいと思うし、進めていきたい。その際、行政も保護者の皆さんと一緒に未来を支える子どもたちを育てていきたいと思うので、今後ともよろしくお願ひしたい。

個人としても、つながること、心が交流することの心地よさを体験させていただいた。